

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第115号

nanae historical  
museum collection

## ななえ古写真物語

VOL. 115

### 明治のななえ

「七重官園写真帖」より

明治11年頃

本町地区



この写真は、明治期に撮影された七飯町本町地区の様子です。とは言っても、今でも残る目印になるような建物もなければ、周囲に家屋が立ち並んでいるわけでもないの、なおさらに現在との違いに驚く方がいるかもしれません。

中央部のやや右上から左へ向かってのびる道路に沿って、石垣が並んでいることから、この場所が、七重官園事務所のあった現在の七重小学校付近であることがわかりますし、以前ピチャリ105号でも紹介した種牡馬舎が、その上に白い建物として写っていることから、この道路が国道5号であることがわかりますが、まだ植え付けたばかりのためか、アカマツが並んでいる様子は見てとれません。

また、写真の構図や手前中央に伸びる湾曲した道などから、おそらく家畜房（ピチャリ第70号「乾草運搬の景」参照）と呼ばれる建物の上から撮影された当時の本町地区には、現在のような商店が立ち並び賑やかさが見られず、どこか牧歌的で、のどかな風景が広がっていたことがわかります。百年以上もの月日を重ね、現在に至ったことを思うと、ヒトの進歩のようなものすら感じてしまいます。

ところで、この写真には、鉛筆で「牧牛舎」という端書きがされていました。その建物は右側中央に横長にのびているもので、六つ格子となる観音開きの窓がみられ、その並びには、出入口と思われる開口部、屋根には石置きがされている様子が見られます。七飯町史には「牧丁舎」と紹介されているほか、当館常設展示室にある官園ジオラマでは「旧牧馬舎」としていることから、その呼び名は様々だったのだと思われます。開拓使の報告書には、牛馬の頭数が増加したため、家畜房を建設したとあることから、家畜房ができる前は、主に牛や馬の牧舎として利用していたものと考えられます。その後も牧舎として活用していたとは思いますが、詳細な記録は今のところ見つけることが出来ていません。

現在の位置関係から推測すると、本町地区の国道5号沿いに並ぶ、ツルハドラックやダイソーのあたりと思われますが、周囲に立ち並ぶ木々も残ることはなく、その面影を知る由すらありません。ただただ、残された石垣だけが、忘れられたこの風景を記憶し、変容した街の中で、静かに時を重ねているのかもしれない。

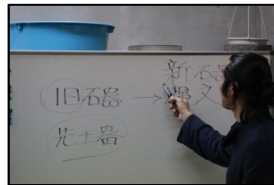
## 5・6日

大沼国際交流プラザ前にて星空観察会を行いました。今回は3日間観察日を設け、そのうちの2日間は澄んだ空気の大沼で皆で群青色の空の下、大型の望遠鏡を用い、月、木星、さそり座などを見ることができました。さそり座は、宮澤賢治の詩にあるように赤くて肉眼でもすぐに見つけられます。いつも当たり前のように見える月も、場所や一緒に見る人が変わると少し違って見える、歴史館ではそんな星空観察会を行っていきたいと思っています。



## 14日

夜の博物館の前期講座が始まりました。第1夜のテーマは「遺跡と環境」。まず町内の遺跡分布図を見て、どこに遺跡があるかなどを解説し、そこからわかることを導いていきます。さらに、縄文海進による温暖化、ベルクマンの法則、パイオニアプランツなどの話から、環境変化が人々の暮らしにどんな影響を与えたかを皆さんに自由に想像してもらい、講座のテーマの幅を広げていきました。また実際に遺物に触れると、土器の作り方の質問も上がり、想像から仮説をたてる、考古学を知る深い夜となりました。



## 17日

今月のジュニア探検クラブは七飯岳の登山を行いました。青空を味方につけた子どもたち。道で出会う昆虫や植物、普段はあまり見られない自然環境のなか、眼下に七飯の街並みを望みながら、登っていきます。山頂近くの岩場への下りでは、最初は怖がっていた子どもも、戻るところには余裕な表情も……。今回は山を熟知した方の心強いサポートがありました。体に負担のない歩き方やスピード、山との関わりかた、子ども達には、そうした知恵をこれからも周りの大人に教わってほしいと思います。



## 8月の予定

1	火
2	水 夜の博物館
3	木
4	金
5	土
6	日
7	月
8	火
9	水
10	木
11	金 山の日
12	土
13	日
14	月
15	火
16	水
17	木
18	金
19	土 ジュニア探検クラブ
20	日
21	月
22	火
23	水
24	木
25	金
26	土
27	日
28	月
29	火
30	水
31	木

8月の休館日はありません

### アサガオ2

朝顔といっても葉や花の種類は多様。「曜白」というこの種は優しい色合いに白の線が印象的です。



### 編集後記 ~tawagoto~

気づくと、アブラゼミが鳴きはじめた。そろそろ夏が本番をむかえている。暑いのが苦手な私だが、ロビーの観察コーナーにクワガタを入手するため、久しぶりのフィールドへ。うだる暑さの中だったが、木々から漏れる光、木陰をそよぐ柔らかな風に、ささやかな癒しをもらった。なによりも、捕ることはできなかったが、はるか高い幹でカブトムシが樹液を吸っている姿に静かな興奮を覚えた。そこには少年時代の自分がいた。(やまだひさし)

~ピチャリ~  
Pichari 第115号

平成29年7月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp